

日野市観光協会だより

第42号（令和6年12月発行）

特定非営利活動法人 日野市観光協会
<https://www.shinsenhino.com/>



家光公ゆかりの寺

土淵山観音院 普門寺

土淵山観音院普門寺は南北朝時代又は室町時代初期に僧 義雲によって開かれた日野宿最古の寺で、もと本宿にあったが室町時代中期に高幡金剛寺の僧 智伝が再興し、その後現在地に移された。元来、牛頭天王社（現日野総鎮守八坂神社）の別当職として社務をつかさどり、三代将軍家光公より「十四石、諸役免除」のご朱印を賜った。

明治の神仏分離により八坂神社は当寺より離れ、更に境内の東半分が日野小学校に裂かれた。現在の中央公民館、福祉センター、児童館等がその跡地である。

当寺は神仏分離の影響を最も強く受けた寺で、無住同様な状態が続き寺域も荒れていたが、昭和57年から復興に着手し、庫裡新築、観音堂（市有形文化財）の解体復原、本堂新築等の諸工事を五年間で一挙に完成した。しかし平成26年1月の火災で本堂・庫裡・客殿を焼失したが、檀信徒の協力で平成29年に再建された。

本尊「大日如来」は本堂落慶にあわせて造顕された等身大の美しい座像、旧本尊は端正な「観音菩薩」であり、江戸初期の作。「弘法」「興教」両大師は高幡山伝来の由緒ある像である。

収蔵の護摩炉は室町初期の作と推定される鉄炉で、市の有形文化財。本堂前の大石は八幡石と呼ばれ、寛文4年に市内の七ツ塚古墳から運ばれたものである。

普門寺開創の詳しい年月は判明していないが、南北朝時代に当地 土淵郷を領していた山内経之の消息文（高幡不動尊所蔵の像内文書 重要文化財）中十四号文書にある「北の御てら」は普門寺の事とも考えられるので、開創はそれ以前にさかのぼる可能性もある。

観音堂は文化4年に下河原観音講中の勧進によって建てられた。方形造りの小堂ながら、当時の立川流の名匠、小町糸之丞の代表作とも言える傑作で、向拜の流動的な力強い彫刻群、粽しぼりの珍しい八角柱、軒の美しい扇垂木などは特筆すべきものです。ことに扇垂木には「向拜の先端まで扇の垂木配りを伸ばす」という日本全国他に例を見ない独創的な技法が施されており、建築史上重要な構造です。

曼珠沙華が百万本となる日まで



今年の夏も暑い日が続き、いつ涼しくのなるのかと待ち続けていましたが、10月初旬も涼しくならず、この原稿を書いた日には日野市内で30度近くまで気温が上がりました。地球温暖化といわれて久しいですが、この異常気象が当たり前の日常になることに一抹の不安を感じています。

さて、境内の曼珠沙華ですが、暑さのせいかわ開花が大幅に遅れ、お彼岸が終わった頃に咲き始めました。お彼岸の前は『いつ咲きますか?』と問い合わせが多く、坊さん達もそわそわしていましたが、残暑厳しい中でも紅色の花は美しく咲き誇り、境内を美しく彩りました。(高幡不動尊)

第21回 ひのよさこい祭

10月5日(土)

前日からの雨は止まず、雨の中での「ひのよさこい祭」でした。降りしきる雨にもめげず、踊り子さん達は最後まで元気いっぱい踊ってくれました。観客の方たちも傘をさして楽しんで応援してくれていました。市内企業等、多くの皆様のご支援で開催出来ましたことを、この場で御礼申し上げます。秋の雨を吹き飛ばす様な踊り子連の熱気と市民の皆さんの笑顔が溢れた一日でした。

(ひのよさこい祭実行委員長 梅田俊幸)



「笑顔と元気みなぎる踊り子」へのメダル授与

会員日帰り研修旅行

10月11日(金)

今年は10月に入ってから秋雨前線の影響もあり雨の日が続きましたが、研修当日は好天に恵まれ絶好の研修日和の中、総勢27名で研修を行いました。

羽田空港第3ターミナルでは、環境に配慮した建物や江戸風の店づくり、様々なバリアフリー設計を“大田・品川まちなみめぐりガイドの会”の皆様にご案内いただきました。

横浜・みなとみらいでは“帆船日本丸・横浜みなと博物館”にて横浜港の歴史に触れました。時代の需要に合わせて変化していく横浜中華街や、ロープウェイが活躍する近未来的な桜木町の景色



等、学びの多い研修となりました。

今回初めて研修に参加しましたが、これから研修部会で経験を積み、皆様の役にたつような研修を企画できたらと思います。(研修部 伊藤光隆)

第18回 ^{すえしげ}平山季重まつり

10月27日(日)

「平山季重まつり」が、平山城址公園駅近くの「マルシェひらやま」と「平山季重ふれあい館」を主会場として行われました。鎌倉時代、「一ノ谷の戦い」で名を成した「平山季重」の居した地で開催され、地元の方々を中心とした平山季重まつり実行委員会が主催し、日野市と日野市教育委員会が後援、その他多くの地元団体等が協力しました。

過ごしやすい秋空のもと、宗印寺^{そういんじ}までの武者行列や、17チーム43名が参加した平山弓合戦、地元保育園の演舞や太鼓の披露が行われ、飲食等の出店も賑わいました。手作り感とアットホーム感に



あふれたまつりでした。

(まつり推進部長 山口徹雄)

第53回 高幡不動尊菊まつり

10月26日(土)～
11月17日(日)



菊は菊苗の選定から始まり手間暇をかけながら育成し、水やりは勿論重要であります。何よりも温度変化の対応に苦勞をされるそうです。今夏は昨年に増して暑く、10月でも夏日が15日あり、菊愛好家にとっては気の抜けない毎日でありました。11月に入り暑さが和らぐと徐々に開花し、「菊まつり」に訪れた方々は思い思いに写真撮影を楽しんでおられました。期間中、東京多摩菊花連盟の皆様には早朝の水やりを、会員の方々には観光案内のお手伝いをいただき、厚く御礼を申し上げます。

(菊まつり部長 結城祐純)

第58回 日野市産業まつり

11月9日(土)
10日(日)

今年の日野市産業まつりは、天候にも恵まれて昨年以上の賑わいを見せ、延べ6万5千人(昨年より1万人増)の方々にご来場いただく事ができました。日野市観光協会では例年通り新選組グッズ販売の他、「菊まつり」「たかはたもみじ灯路」のチラシ配布も実施しました。

毎年子供たちが楽しみにしてくれているスーパーボールすくいも実施し、期待通り大好評で楽しんでいただく事ができました。お手伝いいただいた会員の皆様、休日にも関わらずありがとうございました。

(事業部会 新野順司)



「多摩モノまつり2024」 で日野市をPR

11月16日(土)

多摩モノレール車両基地で開催された「多摩モノまつり2024」に出展しました。このイベントは普段入ることができないモノレールの車両基地が一般開放され、モノレールの運転室や工事用作業車を近くで見ることができる年に1度のイベントです。また、モノレール沿線の自治体や企業のPRブースが数多く出展されます。日野市ブースでは、“多摩モノレールもなか”や“土方歳三うどん”などを販売し大変盛況でした。

(多摩都市モノレール 後藤研二)



これからの行事予定

1月1日(祝)~7日(火)

日野七福神めぐり(市内7ヶ寺)

2月2日(日) 節分会(高幡不動尊)

2月下旬又は3月上旬 会員研修会

伸びゆく日野市写真コンクール作品募集

応募期間 12月10日(火)~2025年1月12日(日)

詳細は要項をご覧ください。

(事業部会)



日野市観光協会ホームページ リニューアル

スマートフォン対応で、ますます使いやすくなりました。

観光事業の功績に対し表彰



令和6年度日野市表彰に於いて、長年の観光事業の功績に対し、丸山祐幸氏(研修部長)に生活文化功労章が授与されました。お祝い申し上げます。

日野市観光協会の歩み 1958年(昭和33年)、日野町・七生村が合併し都立多摩動物公園が開園した年に日野観光協会として発足しました。1987年(昭和62年)日野観光協会から日野市観光協会へと名称を変更し、2006年(平成18年)3月28日に「特定非営利活動法人」の認可を受けました。その間、「菊まつり」「新選組まつり」をはじめ多くの事業を実施し2005年(平成17年)には事務局を「日野宿本陣」の敷地内に移転しました。

バナー広告主募集

現在、日野市観光協会ではバナー広告主を募集しております。ぜひご検討ください。

(フタ上部月額 会員2,500円 一般5,000円)

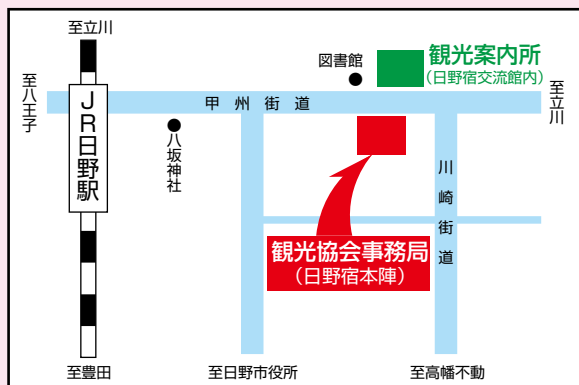
特定非営利活動法人 **日野市観光協会 事務局**

9:00AM~5:00PM 月曜休(祝日の場合は翌平日)

〒191-0011 東京都日野市日野本町 2-15-9

TEL(042)586-8808 FAX(042)586-8961

E-mail info@shinsenhino.com



会員募集

特定非営利活動法人日野市観光協会では会員を募集しています。日野市の観光や新選組、その他イベント等に興味のある方の入会をお待ちしています。詳しくは事務局までお問い合わせください。

編集後記

今回の表紙は普門寺の紹介となりました。市内にある寺社はどこも歴史がありますが、普段は歴史・由来を知ることが無いので、興味深いものです。読んだ方が興味を持って、訪れていただくとうれいそうですね。

私は広報部に入り、2回編集会議に参加しましたが、皆さんベテラン揃いで、てきぱきと編集作業を進めているので、魅力ある紙面作りの足手まといにならないよう協力していきたくと思います。(K)